巻頭特集

住んで好きになって深谷

Live Love FUKAYA

ウィズコロナで地方暮らしが再注目される中、各自治体がプッシュする定住プロモートを「地域みっちゃく生活情報誌」的に特集する。民間の強みで、他自治体との比較もたっぷりの2ページ。

※団体名など名称は正式でなく通称を使用。同じ人のコメントが離れることがあるため、〇数字でコメント主を表示した

極端な気候の「関東の台所」

「赤城おろしの空っ風。初めて体験した時は驚きました。そのかわり、台風や災害が少ないのがいいですね」（長崎出身の福ちゃん・宿根64歳主婦①）

この年末年始はとくに風が冷たい。

「寒い、風が冷たい、ねぎばっかり」（21年1月号に登場のベトナム出身・樫合・フーンさん②）

「長い冬から日差しの温かみを感じ始めると急にチョー暑くなったり、少し秋を感じると急に空っ風の寒さに震えたり」（鳥取出身・上柴東・近藤さん51歳③）

と、西や南からの女性たちを驚かせる極端な気候。だが、この風土が深谷ライフの大きな魅力と切り離せない。

「引っ越してきた年の冬。名産とはいえ、どうせねぎだし大したことは…と思いつつ鍋をつついたら、旬の深谷ねぎの美味しいこと、美味しいこと。脱帽でした。思わず、箱で実家、親戚に何軒か送ったのをおぼえています」（1月号にも登場した、秋田出身上野台の恵子さん・30代④）

農業産出額県内1位、関東6位の「関東の台所」はこの極端な気候のたまものだ。

「『深谷草子』とするならば、春はふきのとう、夏はとうもろこし、秋はきのこ、冬は深谷ねぎ。しかもとうもろこしなら、味来、ゴールドラッシュ、深谷ねぎなら農研、ホワイトスターと品種で語られる、野菜デパート万歳！深谷に百貨店はないですけど、産直！チョー楽しい!!安定コースは、どんどんからの川本産直。最近のお気に入りはよってんべ～さん☆」（近藤さん③）

「安くて種類豊富な野菜で、季節を身近に感じられます」（福ちゃん①）

子育て＆ふっかちゃん世代は語る

「ゴミ収集車が、かわいい！まちなかで、運転中の信号待ちで、収集車と近くなってこんなに子どものテンションが上がる街はめずらしい。わたしもねぎぽーずのかわいさに、はまってます」（恵子さん④）

「子どもたちが注目するからでしょうかね。深谷の収集車の運転手さんは手を振ってくれたりマナーがよかったですよ。毎日ごみの収集があるし（可燃ごみは週4日）、熊谷に越して最初は不便と思っちゃいましたね」（9年前に熊谷に引っ越したアヤコさん⑤）

「ゴミ出しはレジ袋でもいいんだって驚かれます」（岡部地区・幸子さん⑥）

市実施のアンケート（深谷市移住BOOK12ページより）では、深谷の魅力ベスト1は「生活環境」で満足度100％。2位は「子育て環境」だ。

「何より自校給食なのが最高。市立幼稚園も小学校と同じ給食だし、延長保育も充実していて助かります」（3児の母の上柴・おかかさん⑦）

「子どもたちが、あたたかい給食を食べられるのはうれしい」（熊谷出身の新井・ひろこさん⑧）

「全小学校に学童があるし、全普通教室エアコン付もありがたい」（おかかさん⑦）

「本庄の人から、自然派保育園が多くてうらやましいってよくいわれます」（明戸地区・ケムコさん⑨）

「農林公園、緑の王国、わんぱくランド、城址公園、ブリッジパーク…。いろんな公園があって楽しい」（熊谷出身・FMふっかちゃんパーソナリティ小林ひかりさん⑩）

同アンケートでの子育て満足度は78％だ。

新旧がバランスよくミックス

「近所の商店街仲間たちが、大家族のようで大好き。みんなに会える。笑顔が集まるパワースポット深谷商店街です」（深谷商店街活性隊若女将・よーこさん⑪）

全国チェーンでない商店街は、まちの暮らしの大きな魅力。現在区画整理中の深谷中心市街地は歴史ある商店が移転し、新装となり次々とオープンしている。市役所通りも開通し、市役所も新しくなった。

「市役所もイベントに積極的だし、市民みんなの一体感がある」（ひかりさん⑩）

ふっかちゃんバースデイぱーちぃのような新たなイベントや、

「おれ、中学生になって七夕まつりまだない。今年は開催できる？」（仲町・レイくん中2⑫）

「子どもから大人まで、深谷七夕まつりが大好き。夏が始まった合図、深谷の風物詩。今年は開催できますようにと切に願う」（よーこさん⑪）

七夕や深谷まつりのように、長年親しまれてきたものとのバランスも深谷の特徴かも知れない。

新たな街には、冒険がいっぱい。

「いいところは、なんといっても深谷駅！行田、熊谷、深谷などで新居を探してて、通勤時に見る駅が素敵な方がいいな、素敵な映画館のある街で子育てしたいな、というポイントで決めました」（熊谷出身の深谷町・カキつぶさん⑬）

「渋沢栄一、花園アウトレット、パティオと自慢出来るものがある」（福ちゃん①）

「自然が多い、白鳥と触れ合える」（ちはるさん・本田⑮）

市民には見慣れたものも、訪れる人々には驚きだ。Twitterの住人はいう。

「多様な文化遺産、多様な農蓄産物、住む人々との『深谷市』テーマパークで毎日暮らしの近くに楽しみがある」（深谷めぐるさん⑯）

深谷のいちばんいいところ

「人があたたかい。こんな人が多い深谷なら、自分のやりたい富山型デイサービスができると思いました」（恵子さん④）

ありきたりかもしれないが、移ってきた人たちの声は住んでいるものにはうれしい言葉だ。

22年在住の市民はいう。

「ただ仕事の縁だけで深谷に来た関西ルーツの夫婦二人。深谷の地に育てられた私たちの子どもたちは、二人とも他県へ巣立ちました。子どもたちを無事『深谷の一本ねぎ』に仕上げられたかなと思いつつ、この土地で暮らしています。」

10年くらいいつぞや…この深谷の空の下つながるつながれると思って、Love FUKAYAなんてツイッター立ち上げました。

なんらかそれぞれに由縁があって、（LIVE）ここに（FUKAYA）住んでいるみんなが、深谷っていいかも（LOVE）って思っていることと思います」（近藤さん③）

58年間にはいろんなことがあった。

「深谷のいいところ、そんなんねえよ、わかんないね。だって、ここしか知らねんだから」（1月号にも登場の石塚・斉藤和好さん58歳⑭）

病気で麻痺が残りながら、市の推進するアグリテック「ディープバレー」で「深谷ロボット協会」を起ち上げた。

「ほかにどこ行くってんでもねえから深谷に住んでて、娘は児玉に嫁に行ったし、おれも利根川わたって太田の産直に行ったりしてる。ここら全部が深谷なんだいな。

そこで10年前にねぎ焼いて（深谷カルソッツ）知り合った市役所の福嶋くん（ディープバレー担当）にロボット載せてもらって、新聞に出るんだから…。出会い、めぐり合いが多いのがいいところかも知れねんな」（斉藤さん⑭）

住めばみやこ、住めば深谷。わたしたちは定住する人、待ってます。

田邊さんファミリーにインタビュー

本庄市より移住、田邊洋平さんと奥様・長女（幼稚園年長来年小学生）長男の4人家族にインタビューしました。

引越して4ヶ月。引越しするきっかけは小学校の給食。小学校6年間の給食を考えて、地元の野菜を使った手作りの深谷市が安心と思い選択要因のひとつとなった。幼稚園でも同じような手作りの給食を食べているが、子どもが給食をおかわりするようになった。栄養バランスも考えてくれているので、安心できる。小学校にあがる前に選択してこの時期の転入となった。（奥様）

ご主人は以前深谷市で働いており（現在は東京へ通勤）通勤の便でも本庄より通勤時間が短くなった。以前深谷の人達に仕事で関わり、今現在の仕事が事業継承関連なので、いずれはこの事業で深谷のお役に立てればと思っている。

住んでみてよかったことは、ご近所のかたが温かく気軽に声をかけてくれるので、住んでいて安心なこと。公園が多く、散歩しながら新しいお店を発見したり楽しみがある。また東京から両親が訪ねてくる際も近くなり便利。ご近所のかたが優しく、お祭りの誘いもあり、みんなで子どもたちを見守ってくれるようで、また災害時も助け合えそう。

深谷市役所発行 **深谷市移住BOOKで** 地域の暮らしやすさを紹介します。

	深谷市データ	比較データ
市民の定住意向（10年連続90%をキープ！）	93%	
住宅の価格相場	2,551万円	4,708万円（都内）
持ち家比率（県内トップクラス）	76%	41.6%（23区内）
家の広さ（県内トップクラス）	107.77㎡	61.61㎡（23区内）
1ヶ月の平均家賃	48,548円	88,491円（23区内）
幼稚園・保育園など	56園	
学童保育室	32室	
子育て支援センター	17ヵ所	
日照時間（10年で快晴日が567日）	快晴日数全国1位	
平均通勤時間	25分	44分（埼玉県）
公立幼稚園・小学校・中学校の耐震化率、エアコン設置率	100%（燃やせるごみは週4日収集）	
ごみの収集	週5日	
ねぎの作付け面積	全国トップレベル	埼玉県内における農業産出額県内1位